

第4回マザーレイクフォーラムびわコミ会議の結果概要

◇開催概要

日 時： 平成 26 年 8 月 23 日（土） <第 1 部>10:30～12:00 <第 2 部>13:15～16:30

場 所： コラボしが 21（滋賀県大津市打出浜 2-1）

主 催： マザーレイクフォーラム運営委員会、滋賀県

参加者： 224 名

参加団体： 104 団体

ブース出展団体数： 25 団体

テーマ： 「つながったから、見えてきた！『マザーレイク』の新しいカタチ」

内 容：



【第一部】みんなつながる報告会 10:30～12:00

1 開会挨拶

松沢松治（マザーレイクフォーラム運営委員会委員長）

三日月大造（滋賀県知事）

2 昨年度のコミットメント

昨年度のびわコミ会議においてコミットメント（約束）を書いた参加者から、この1年間、約束を果たすことができたかどうか報告を受けた。

3 活動団体5団体からの報告

次に、山・川・湖・暮らし・海で活動する5団体からこの1年間の活動報告を行った。

① 山：「kikito」（山口美知子）

“びわ湖の森を元気にする kikito の挑戦”

森林整備により伐採された間伐材を買取り、コピー用紙等の紙製品としてオフィスで活用する循環利用の取組について報告した。

② 川：「TOTO(株)滋賀・滋賀第二工場」（田辺宏之）

“NPO 法人と企業の協働による水環境の再生保全

～TOTO 滋賀・滋賀第二工場の環境貢献活動について～”

NPO 法人家棟川流域観光船と TOTO(株)の協働による『森・川・里・湖のつながり再生』プロジェクトの取組について、活動＝人の輪が広がってきたこと等を報告した。

③ 湖：「認定 NPO 法人びわこ豊穰の郷・国際ボランティア学生協会（IVUSA）」

（金崎いよ子、中島正一、○高木駿、谷清隆）

“守ろう琵琶湖！オオバナミズキンバイ除去大作戦”

NPO・企業・地域等との協働によるオオバナミズキンバイ除去の取組について、作業の様子や成果、また今後の課題について報告した。

- ④ 暮らし：「びわっこ大使」（瀧有伽、岩田貴義、堤まいか、竹村佳志之、東江早百合、大谷花、古池流星、長井翔、竹村知那巳）

“2013・2014年度「びわっこ大使」活動報告”

「ESDのためのKODOMOラムサール」への参加など、琵琶湖の素晴らしさ・大切さを国内外に伝える活動や交流について報告した。

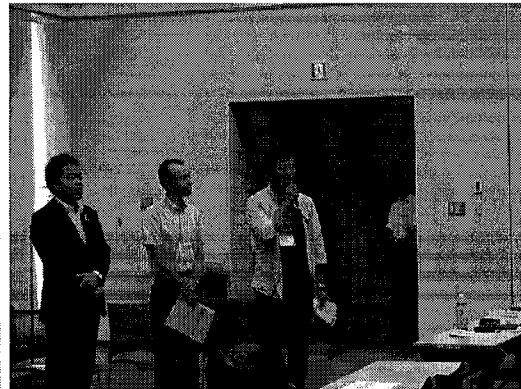
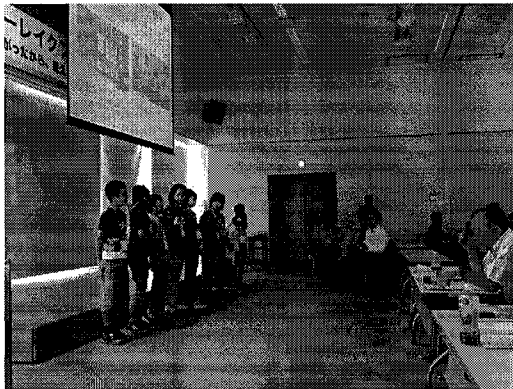
- ⑤ 海：「島を美しくつくる会・愛知県西尾市」（○山崎高志、筒井伸武）

“愛知県・三河湾におけるアマモ場再生活動～佐久島の海をもっと豊かに!!～”

佐久島の一人の中学生が始めたアマモの調査・再生活動。その思いを引き継ぎ活動する島民と島外ボランティアによるこれまでの取組について報告した。

各団体からの発表の後、県より関連するデータ等を提示するとともに、次の3名のコメントが、県や学術フォーラム等の立場よりコメントを行った。

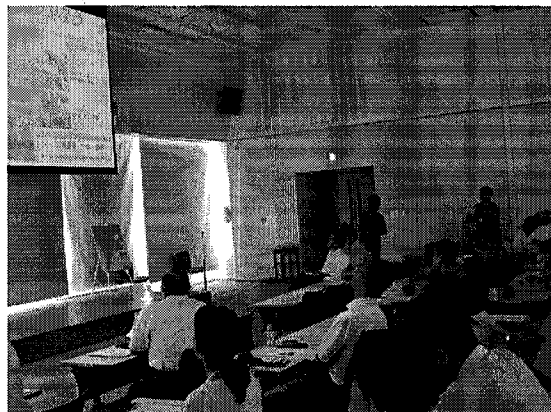
- 三日月大造（滋賀県知事）
- 井手慎司（マザーレイク21計画学術フォーラム委員）
- 三和伸彦（滋賀県湖北環境事務所長）



4 「びわ湖なう」（小松直樹）

「びわ湖なう」として、この1年間における琵琶湖の特徴的な現象や課題等について、県より報告した。

- ① マザーレイク計画進行管理
 - ・施策の進捗（アウトプット）
 - ・環境の状況（アウトカム）
- ② 最近の琵琶湖情報
 - ・琵琶湖水質の特徴
 - ・水草



- ・オオバナミズキンバイ
- ・魚の状況

- ③ マザーレイクフォーラム
- ・びわコミ会議
 - ・地域・分野別フォーラム

【昼休み】 12:00～13:15

25 団体からブース出展があり、参加者は各ブースを見て回り、出展者と個々に交流した。



【第二部】びわ湖のこれから話さへん？ 13:15～16:30

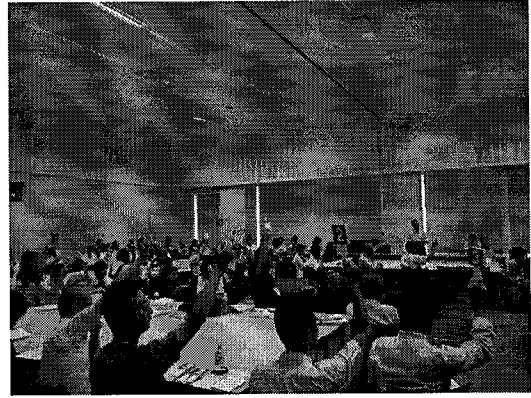
1 交流ワークショップ

9のテーマ別にグループに分かれ、話し合いを行った。

まず、「話し合い」の進め方や留意点等について、司会より説明を行った。

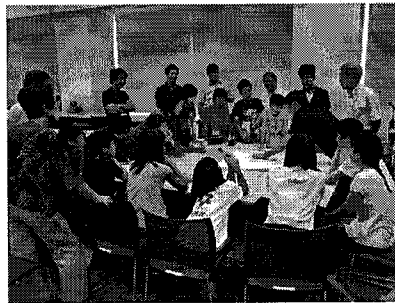
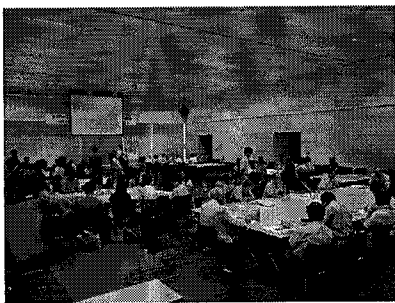
続いて、各グループの担当者が紹介され、担当者は簡潔に話し合いのテーマのポイント等を説明した。

- A-1 「若い私たちの環境への思い」 (川嶋宗雄)
- A-2 「源流管理で環境いきいき琵琶湖！」 (吉田栄治)
- A-3 「琵琶湖を支える市民参加とは」 (上岡瞳)
- A-4 「教えて！あなたのまちのタカラモノ」 (奥田昇)
- A-5 「生物多様性に配慮した企業のCSR」 (中村満)
- A-6 「琵琶湖・淀川水系での上流と下流がつながるには？」 (野田晃弘)
- B-1 「地域の中で、NPO と行政と企業の連携をどうつくっていくか」 (村上悟)
- B-2 「内湖の復活について」 (松沢松治)
- B-3 「川と人、人と人をつなぐ地域活動について」 (仁枝洋)



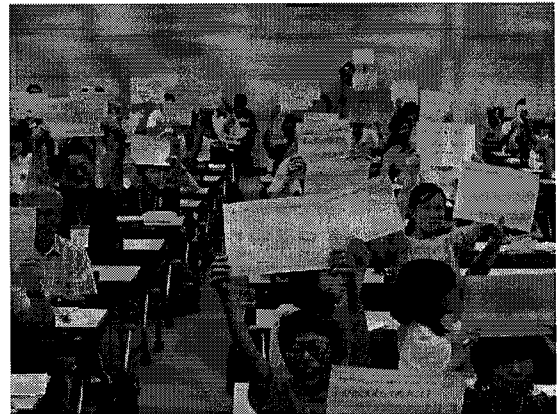
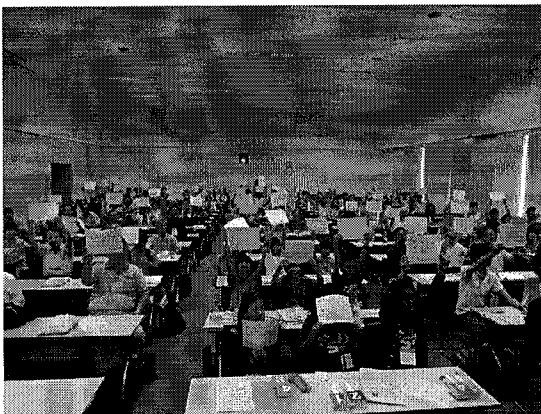
各グループごとの人数を事前に把握するため、旗挙げによるグループ分けを行った。

その後、メイン会場5グループ、サブ1会場2グループ、サブ2会場2グループの合計9グループにより、話し合いを行った。 } (80分)



2 私のコミットメント

参加者全員にコミットメント（約束）を記載してもらい、一斉に掲揚。



その後、司会者は数名にコミットメントの内容を尋ねた。

会場からのコミットメントや意見等は次のようなものがあった。

○男性：「現場へ行って、環境を守る活動に年10回以上参加する」

現場に足を運んで、問題を的確に捉えることが大切だと考えている。

○女性：びわこを大好きになり、大切に守っていく！！

琵琶湖で泳いだり船でまわるなど、楽しい経験をすることで琵琶湖を好きになり、

もっと琵琶湖を守りたいという気持ちになると思う。

○男性：「なるべく多くの方に森林を体験してもらおう。」

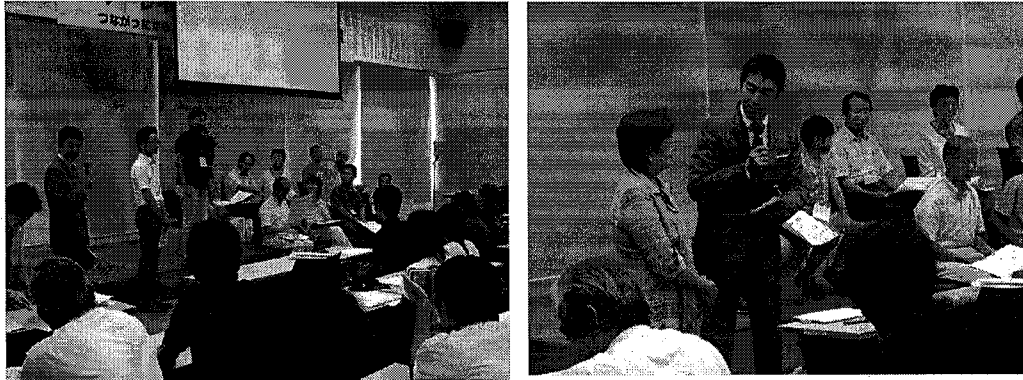
県職員として、滋賀県の森林の現状を多くの方に知っていただけるよう取り組んでいきたい。

○男性：「山川里海健康診断を広める深める」

愛知県三河湾の再生のため、山川里海健康診断事業を子どもたちとともに取り組んでいきたい。

3 第二部まとめ

各グループの代表者が、グループ内で話し合ったキーセンテンスを発表し、嘉田前知事よりコメントを行った。最後に、各キーセンテンスをみんなのコミットメント「びわ湖との約束 9箇条」としてまとめた。



○「びわ湖との約束 9箇条」

1. びわ湖に親しんで好きになろう。そしてたくさんの人に大切さを伝えよう。
2. びわ湖の環境は県民みんなの生き方の水鏡
3. みんなが主役 人づくり 環境教育 行政支援 M・O・Hマインド
4. 五感で発見！世代で発見！親・子の「環境循環」
5. 「社会・地球の維持可能な発展への貢献」
～CSRの推進により「企業に」「生き物に」「地球に」良し～
「企業」－地域から信頼される 「生き物」－生息環境が増える 「地域」－緑が増える
6. もう既につながっている。そのことに気付いてもらう“しかけ”が重要
7. 地域の中に居続けるコーディネーターの存在
8. 今の暮らしの中で、山・川・田んぼ・びわ湖とつながる新たな内湖をみんなで考える
9. 地域住民も半分、行政も半分、お互いに汗をかき「食べる」「楽しむ」部分を取り込む

司会者より閉会が述べられ、第4回びわコミ会議は終了した。 (16:30)

びわ湖との約束 7カ条

第4回マザーレイクフォーラムびわコミ会議

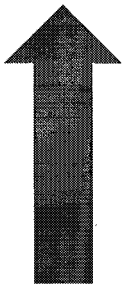
～宣言～

『びわ湖は、みんなの生き方を映す水鏡』 (2)

～7つの約束～

1. みんなが主役…びわ湖を好きになって大切さを伝えよう！ (1・3)
2. 親から子へ・子から孫へ…びわ湖の魅力をつないでいこう！ (4)
3. 食べる・楽しむ・汗をかく…五感でびわ湖に親しもう！ (9・4・1)
4. 人とびわ湖・上流と下流…身近なつながりに気づこう！ (6)
5. 地域と共に生きる…びわ湖コーディネーターを育てよう！ (7・3)
6. 山・川・田んぼから…びわ湖とつながる内湖を考えよう！ (8)
7. 企業よし・生き物よし・地域よし…びわ湖三方よしを目指そう！ (5)

※カッコ内の数字は参照した元データ（テーブル）の番号



<編集方針>

- ・ 多くの人共感できるよう、初めて見た人にも分かりやすい文章にする
- ・ 親しみやすくするために、文章を短く、統一感を出す
- ・ グループごとの思いを踏まえ、川本勇・佐藤祐一が咀嚼してまとめる

第4回マザーレイクフォーラムびわコミ会議 各グループのキーセンテンス (H26.8.23)

1. びわ湖に親しんで好きになろう。そしてたくさんの人に大切さを伝えよう。
2. びわ湖の環境は県民みんなの生き方の水鏡
3. みんなが主役 人づくり 環境教育 行政支援 M・O・Hマインド
4. 五感で発見！世代で発見！親・子の「環境循環」
5. 「社会・地球の維持可能な発展への貢献」～CSRの推進により「企業に」「生き物に」「地域に」良し～「企業」－地域から信頼される 「生き物」－生息環境が増える 「地域」－緑が増える
6. もう既につながっている。そのことに気付いてもらう“しかけ”が重要
7. 地域の中に居続けるコーディネーターの存在
8. 今の暮らしの中で、山・川・田んぼ・びわ湖とつながる新たな内湖をみんなで考える
9. 地域住民も半分、行政も半分、お互いに汗をかき「食べる」「楽しむ」部分を取り込む

2014びわこ会議 私のコミットメント(約束) 一覧 (1/8)

平成28年8月23日 第4回マザーレイクフォーラムびわこ会議

	内 容
1	びわ湖の特産品を食べる!!
2	自分で体験しながら、びわ湖のことをもっと知る!!
3	びわ湖の恵みをたくさんいただきます。
4	びわ湖のめぐみをいただく。
5	琵琶湖をはなれても、水辺の環境について考えていく。
6	内湖のエコシステムを解明する。
7	地域とのつながりを行動にうつす
8	・生物多様性を深く理解し、人々に伝える。 ・守り、活用することを実践し、実感する。 ・心豊かな生活を周りの人と共有する。
9	「汚水や洗剤を流したらあかんっていうことをお母さんに伝える」などと思っていることを行動にうつすことが大事。
10	地域のなかで「つながり」を育む人財をふやす
11	365日びわ湖(“WITH” びわ湖と共に・“FOR” びわ湖のために)
12	湖魚料理に親しむ
13	琵琶湖の大切さを周りの人に伝えていく!
14	びわ湖「全体」を学ぶ!!(北湖～南湖まで、もっと知りたい)
15	びわこ流入河川で活動している団体間・行政間の連携を進めます。 マッチング 3ヶ所以上
16	琵琶湖のめぐみをいただきます
17	びわ湖に関心を持って、好きになり、たくさんの人に大切さを伝えていく。

2014びわこ会議 私のコミットメント(約束) 一覧 (2/8)

平成28年8月23日 第4回マザーレイクフォーラムびわこ会議

	内 容
18	琵琶湖周辺の探題・取組を、自身のつながりが深い大阪～神戸の色々な機会毎に発信していきたい。そこから先へ連鎖を波及。
19	びわ湖と森とのつながりを意識した活動の中で動きをつくり、動きの環をつくる “協働の力”を発揮する。
20	週1回、昼休みに散歩で琵琶湖を見に行く。
21	びわこの上流「山」へ行き、つながりを感じる
22	知り合いにびわ湖自慢をして、びわ湖のファンを増やす。
23	M・O・H(もったいない・おかげさま・ほどほどに)マインドを広げる
24	流域再生の研究プロジェクトをすすめる!!
25	滋養でおいしいものを食べて、楽しく役立つ研究を進める。
26	現場へ行って、環境を守る活動に年10回以上参加する!
27	びわ湖の恵み・環境を知識として伝え、食文化や地産地消を実体験して次世代の子供達へつなぐ!
28	びわ湖を見守る人をたくさん集めたい。
29	びわ湖の魅力を伝える。若い世代から!!
30	びわこ大使として学んだことを多くの人に人へ伝える!!(自分の言葉で!!)
31	びわこを大好きになり、大切に守っていく!!
32	くらしとびわ湖がつながっていることを心に想い、ひろげます。そして、人と人、想いと想いがつながるように日々努めます。
33	もっと、滋養の自然と人の暮らしを知り、出会った人たちをつなぐ!! “もちろん、楽しく!”
34	びわこ水都大阪をつなぐ活動をつづけます。

2014びわこ会議 私のコミットメント(約束) 一覧 (3/8)

平成28年8月23日 第4回マザーレイクフォーラムびわこ会議

	内 容
35	川ガキ文化を伝える(2013) → 復活・確立
36	・びわ湖の水をなるべく汚さず、大阪へ ・森を守る活動への年1回参加
37	来年もびわこ会議に参加する。琵琶湖に関するイベント最低5つに参加する。得たことを伝えていく。継続!!
38	びわ湖の森の“今”を伝え、さまざまなつながりを増やします!
39	琵琶湖(滋賀県)へ清掃活動にくるぞー
40	滋養の環境団体もっているタカラモノをいっぱい取材します
41	琵琶湖を守る県民運動の正確で大きな評価と画期的全身への努力! (「びわこナウ」はよかった、もっと時間を!)
42	自然と共生しながら地域循環型社会を1つひとつ創り上げていく暮らしを実現する。
43	もっと山へ! もっと川へ! もっと田へ! もっと内湖へ! もっとびわ湖へ足を運ぶ!!
44	地元の大先輩(お年寄り)から田舟の操船法を伝授してもらい、ダバ貝釣りに挑戦する。で、釣れたら炊いて食べる。
45	手こぎ舟の櫓を漕いで、できるだけたくさん時間、琵琶湖の上で琵琶湖を感じる
46	自然と親しみたくさん遊ぶことと、自然を守ることをがんばる!!
47	琵琶湖のことについてもっと知り、理解を深め、湖を守ろうという意識を高める。琵琶湖などの他にも環境を守ろうとする人がいることを一人でも多くの人に知ってもらい、参加してもらえるようにする。
48	びわ湖に関心をもつ!!
49	五感で発見『たからもの』
50	びわこのことをもっと知って来年これら来たい!! そして、びわこをもっと好きになる!! 半田の人にもびわこについてたくさん知ってもらいたいです。
51	こらからもエコクラブを続けて活動を思いっきり楽しむ。

2014びわこ会議 私のコミットメント(約束) 一覧 (4/8)

平成28年8月23日 第4回マザーレイクフォーラムびわこ会議

	内 容
52	自分の立場を生かした環境活動を継続する!
53	人とつながりを今まで以上に大切にして、環境活動を続ける!! そして一つひとつの活動を楽しく!
54	今年も地元の川をキレイにし、赤野井溝・びわこにつなぐ活動を頑張ります。
55	びわこの環境を守るために私に何が出来るかを毎日考える
56	①MOH通信をかかさず読む ②来年のびわこ会議にも参加する。
57	みんな自然とつながっている → 私たちみんなが主役 → 主役を増やす取組を!
58	うちに帰って琵琶湖の話をしよう。
59	地元小中学校と連携ができるようにする。 組織づくりに努力してみる。 行政・自治会との連携をはかる。
60	より多くの子ども達に生き物のつながりを感じてもらえる活動をする。
61	現在のびわ湖を少しでも昔のびわ湖に戻す努力をする。
62	琵琶湖での様々な活動を、今興味のない人達にも知ってもらう
63	子どもと一緒に在来魚を釣る
64	恵まれた「しが」の自然を学び、守り、伝え、琵琶湖保全に活かします。
65	子供達と共に自然とその大切さを学ぶ
66	1人でも多くのひとびわ湖・家来川流域に来てもらい、たのしんでもらう。
67	琵琶湖の法案を頑張る。
68	琵琶湖で泳ぐ

2014びわこ会議 私のコミットメント(約束) 一覧 (5/8)

平成28年8月23日 第4回マザーレイクフォーラムびわこ会議

	内 容
69	鮎ずして、琵琶湖の環境保全の大切さ、湖魚文化→湖国の文化の良さを訴えることに心がける。
70	ボランティアでやっている日本語教室の学習者(外国人)たちに環境について考えるイベントを提供する。
71	大阪湾までつながる
72	びわ湖の変化をもっと、わかりやすく伝える。
73	マザーレイクと京都について、1本原稿を入れる。
74	ビワマスが多く遡上する川にしていきたいです。(童子川、中池川)
75	美しい琵琶湖
76	水と琵琶湖を大切に考える人を増やす。
77	なるべく多くの方に森林を体験してもらおう。
78	家族で琵琶湖岸を散歩する。
79	西の湖の保全活動の裏話をまとめる。
80	家族みんなで琵琶湖へ行こう。冬の水鳥に会いに行こう！(活動する人を増やそう)
81	家族ぐるみで琵琶湖のためになることを考え、取り組みます!!
82	びわこの過去を知る
83	湖魚料理をもっとたくさん食べる
84	現地で感じる
85	ホテルで地域の環境への思いをつなぐ

2014びわこ会議 私のコミットメント(約束) 一覧 (6/8)

平成28年8月23日 第4回マザーレイクフォーラムびわこ会議

	内 容
86	環境保全活動に参加するきっかけづくり、場づくりをすすめます!
87	「琵琶湖の声が聞こえますか?」「はい、よく聞こえます」と答えられるようにします。
88	びわ湖や川で楽しく遊ぶ
89	毎朝びわ湖に会いに行く
90	地域フォーラムの活動を発展していく。
91	白鳥川の景観を良くする会の活動に参加する。
92	1. 子供達に活動への参加の喜びを伝え、次世代へ引き継ぐ 2. 活動の輪の拡大
93	琵琶湖の生物多様性を護る為、①知る・学ぶ→②思考する→③行動する・伝える の循環を常に意識・実行する
94	琵琶湖の良い所を見つけ、それがもっと良い方向に進むには何をすればいいのかを考える。
95	私は新規NPOの方々と交流を深めます。 目標 プラス2団体
96	山川里海健康診断を広める深める(環境教育) 環境資本を生かした地場産業にスポットを当てる(環境金融・環境経済) →「三河湾と生きる」続編制作 環境観光地建設のはじめの一歩
97	活動に多くの手がながるよう心がけよう
98	「びわ湖の環境を考える」「食育」「川の水質と生物調査」の出前授業を続けていきたい。
99	琵琶湖淀川流域の食・エコツーリズムなどを通じた具体的なつながりがづくりを進めます!
100	生きものはつながって生きていることを知る 他の生きものに気配り
101	おいしい湖魚を毎週食べるぞ
102	水草堆肥を使って、その効果の理解を深めたい その効果を多くの人に伝えることを通して、びわ湖の保全に貢献しよう

2014びわこ会議 私のコミットメント(約束) 一覧 (7/8)

平成28年8月23日 第4回マザーレイクフォーラムびわこ会議

	内 容
103	自然資本を利用しているので、自然資本へのリターンに貢献します。(川掃除を行う!)
104	びわ湖を参考に引き続き三河湾で何ができるかを考えます。
105	団体として:大阪湾からびわ湖の環境保全の取組みに協力応援します。 個人として:滋賀県もしくは市町村にふるさと納税を行い、各種の取り組みを応援します。
106	地域の課題を解決/改善するために自らのできることを地道に取り組みたい。
107	行政との連携でこれ以上びわ湖を汚さない!
108	琵琶湖を含む遊覧の環境を保全するためには、単に自然環境の改善や保全だけではなく、経済活動や産業活動を含む生活活動全体を網羅した対策が必要である。それには次のキーポイントを推進する必要がある。 ①NPO・NGO等の民間団体や企業・学校(学術)が一体となった取組が必要 ②それを実施に向けて調整をする人財の育成と実活動 ③みんなが主役という意識のもとに市民参加の実務を推進する。
109	琵琶湖の魚を料理して食べる
110	赤野井湾再生に向けて、しじみがすめる環境を再現
111	環境(びわこを含む)に関心を持つ人をふやすよう、お友達作りをしたい。 2人以上仲間にする。
112	びわこの水を大切に!水質保全につとめる。その手始めとして、 ●2年前から地域で「川の日」を決めて住民で川の清掃を年に1~2回している。ごみを出さないよう、無駄なものは買わない、もらわないようにして地域・川・湖を美しくして生物多様性を支える。 ●ひきつづき、マイバッグ持参運動をしている
113	私たちは、ゴミを減らそうプロジェクトとして活動。 マイバッグ持参運動も野洲は90%をこえました。子供達にもCO2を出さない取組を出前講座を通じて啓発しています(人形劇、紙芝居)
114	食べることで琵琶湖を守る! 魚のゆりかご水田、生きもの豊かな水田づくりのお手伝いをします!!
115	「川は排水路でないこと」を再認識する活動を。
116	琵琶湖のめぐみ(水草)、森のめぐみ(滋養豊かな山水)、おひさまのめぐみ(太陽エネルギー)を活用して、自然環境と生態システムへの感謝の気持ちを込めながら、自然農でお米とたんぼの生きものを育てます。

2014びわこ会議 私のコミットメント(約束) 一覧 (8/8)

平成28年8月23日 第4回マザーレイクフォーラムびわこ会議

	内 容
117	びわ湖への想いを持ったメンバーが“つながる”交流会を立ち上げる
118	行ったことのない地域フォーラム(イベント)に3つ以上参加する(新たなつながり作り)
119	
120	
121	
122	

第4回マザーレイクフォーラムびわこ会議(2014年8月23日開催)第2部*において提示されたマザーレイク21計画(第2期)の評価結果

グループテーマ	計画における該当箇所			評価結果		
	章	節	項目名	すでにできていること	実現に向けた課題	十分記載されていないこと
1. 若い私たちの環境への思い	8		計画の実効性の確保	琵琶湖を愛する思いを抱くことが、あるべき姿を実現するための行動につながり、ひいては、つながりを広めていくことで課題を共有することの重要性を実感していること。	関心のない人々に対して琵琶湖の現状や保全の取り組みを知ってもらい、関心を抱いてもらうこと。	琵琶湖を保全することが、自分たちにとって、日常生活のレベルでどのように目に見えるメリットがあるかということ。
2. 源流管理で環境いきいき琵琶湖!	7	3	森・川・里・湖のつながり再生プロジェクト		グループキーセンテンスで報告された「琵琶湖の環境は皆の生き方の水鏡」の通り、びわ湖に関わる地域住民全ての生活態度・意識の持ち方で琵琶湖は大きく変わる。(良い方向にも悪い方向にも)	
	8	1	協働の視点に基づく参画・実践・交流	ボランティアGの連携(活動の発表・報告の場づくり)	これに向けた、あらゆる機会を通じての教育・啓蒙と共に、改善に向けた活動が必要。 ・ボランティアに活動の主体をお願いするのであれば、これに対する助成と共に、一般への活動認知のための行政や地域企業のバックアップが必要。	
3. 琵琶湖を支える市民参加とは	8	1	協働の視点に基づく参画・実践・交流	環境教育の実施。 「びわこの日」を中心とした県内各地での清掃活動。各種プロジェクトの実施。 またその指標の整理・発信。	自然に対する意識付けを考慮した環境教育の実施。 市民参加を率いるリーダーの育成。 琵琶湖を有する滋賀県サイトからだけではなく、京都・大阪から見た「びわこ」についての情報共有。さらに連携の強化。	琵琶湖は下流域に重要な役割を果たしているだけでなく、下流域の治水や水利用が、琵琶湖のあり方にも影響を与えていること。具体的な事例や取り組み、施策等の記載がもっとあってもいいのではないか。
4. 教えて!あなたのまのタカラモノ	7	1	「近い水」のある暮らし再生プロジェクト	「近江水の宝」調査活用に関する事業 http://www.pref.shiga.lg.jp/edu/sogo/kakuka/ma07/treasure_of_water/	地域を代表する名勝・古刹レベルの有名な「宝」に関しては、その選定に多くの人が賛成すると思います。今回の話し合いでできた宝は、このような有名な宝も含まれますが、一方で個人の体験にもとづいたより小さなスケールでの宝や無名の宝も入っています。後者の宝をどう伝えて守っていくかが今後の課題ではないでしょうか。	
5. 生物多様性に配慮した企業のCSR	7	2	琵琶湖の生きものにぎわい再生プロジェクト	・水草の有効利用 ・水陸移行種の保全・再生 ・在来生物の保全	企業主体ということで、環境保全は景気変動に大きく左右される(利益にならないので)	
6. 琵琶湖・淀川水系での上流と下流がつながるには?	7	1	「近い水」のある暮らし再生プロジェクト	p.40, 4行目 琵琶湖に感謝する「飲水思源」については、近畿の水瓶として認識されている。		・「内容・主な施策(p.40)」に「県域を越えた流域連携事業」の記載が必要 例: グランドの助成金など、上下流連携の事業に対する支援 例: 指標として、マザーレイク・淡海の川づくりフォーラムへの他府県団体の参加
	8	1	協働の視点に基づく参画・実践・交流		・飲み水、生き物、食べ物、災害などで上下流(流域)は繋がっているが、そのことに気づく仕掛けがない。 ・特に琵琶湖の課題が、下流域に知られていない。課題を伝え合うツールがない	・「琵琶湖淀川流域の取り組み(p.50)」に「市民団体等」との連携強化の記載が必要 例: 「琵琶湖・淀川流域圏再生推進協議会」と同様に民間団体で構成される「琵琶湖・淀川流域圏連携交流会」や「淀川管内河川レンジャー」の活用を記載 例: 「琵琶湖淀川流域で開催される、琵琶湖を知ってもらおう活動」に対する取り組みの充実を記載 ・記載事項にない、新たな考え方として記載 ※飲み水、生き物、食べ物、災害などで上下流(流域)は繋がっているが、そのことに気づく仕掛けがない。特に琵琶湖の課題が、下流域に知られていない。課題を伝え、その解決に上下流の市民団体、個人が取り組みことで、課題が宝物に変わることになる。そのような企画に取り組む必要がある。
7. 地域の中で、NPQと行政と企業の連携をどうつくっていくか	8		計画の実効性の確保	マザーレイクフォーラムの開催	・下記箇所を担う人材(地域コーディネータ)の育成と、継続的雇用を保障する財源形成 「こうしたさまざまなレベルにおいて、多様な主体が参画可能な機会の提供や実践のための活動を支援する仕組みを充実するとともに、各主体間の交流を促進し、幅広い範囲で情報を共有するための機会の提供や仕組みの充実が必要となります。」(「1. 協働の視点に基づく参画・実践・交流」のロードの最終部分) ・新しい連携のあり方を構築するにあたっての行政(県・市町)の役割と規範の明確化	・目指すべき持続的な連携のビジョン ・持続的な連携構築のための戦略(人材育成と財源形成) ・マザーレイクフォーラムの運営と、地域での取り組みとの有機的な連携のあり方
8. 内湖の復活について	7	2	琵琶湖の生きものにぎわい再生プロジェクト	・早崎内湖再生検討事業・内湖再生ビジョン ・環境・生態系保全活動への支援に関する事業 ・豊かな生き物を育む水田づくりに関する事業	・内湖再生計画地における地権者をはじめとした関係者の合意形成 ・内湖の役割、再生に向けた事業についての効果的な情報発信、情報交換の場づくり ・今の時代に即した内湖のあり方(管理運営手法を含む)についての研究・協議	・計画では、「内湖再生」とあり、内容や指標を見ると、「内湖機能の再生」を考えているように見えるが、計画本文ではそのような記載は見当たらない。 ・そのため、計画書p.44~45の記載がらぐはぐな印象を受けてしまう。 ・なお、今回のグループテーマは「内湖の復活について」であり、「内湖機能の再生」については議論されていないので、ご注意ください。
9. 川と人、人と人をつなぐ地域活動について	4	3	計画目標	各地域フォーラムやネットワーク団体における地域内外の交流・つながり・協働	各地域フォーラム等における地域内外の現在の交流・つながり・協働から、琵琶湖流域全体のことを念頭においた活動への発展	つながりを支援するつなぎ役の存在と役割について

*びわこ会議第2部とは:

「びわ湖のこれから、話さへん? 『マザーレイク』の新しいカタチを考える交流ワークショップ～」と題し、市民、企業、研究者、行政など多様なセクターの人々が複数のテーマに別れて、少人数で話し合う場のこと。お互いの立場や考え方の違いを尊重しつつ、びわ湖のこれからについて考え、計画の評価を行う。

